

2005

川上ダム通信 7月号

発行者
独立行政法人水資源機構
川上ダム建設所
〒518-0294
三重県伊賀市阿保 251 番地
TEL : 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

国土交通省、淀川水系5ダムの事業方針を発表

川上ダム事業実施に向けて各関係機関との調整が本格化

平成17年7月1日(金)、国土交通省としてのダム方針がとりまとめられ記者発表されました。

このとりまとめは、これまでの調査検討結果をふまえ、各ダムごとに、治水・利水の必要性、緊急性のみならず、経済的なメリット、環境への影響等の観点から総合的に検討されたものです。



川上ダム建設予定地

その中で川上ダム事業は、以下の目的で実施することが発表されました。[①前深瀬川・木津川・淀川の洪水調節②流水の正常な機能の維持③三重県(上水)の新規利水]。

今後は、ダムの計画内容を確定していくための関係機関との調整が本格化することになります。事業計画を一日も早く確定させ、地域の期待に応えるよう努めます。

【所長 恒吉徹】

川上ダム事業の方針を受けて

これまで長年にわたって、川上ダム事業に関わってこられた方々にインタビューを行いました。今回、インタビューに答えて下さったのは、今岡睦之伊賀市長、川上ダム建設促進期成同盟会の西山甲平会長、川上地区ダム対策委員会の古川喜道会長のお三方です。行政、上野地域住民、水没地域住民のそれぞれの立場で、今回のダム事業方針の発表について聞いてきました。(次頁へ続く→)



国土交通省が発表した淀川水系のダム事業方針について各紙が一斉に報道。話題の大きさが窺える。

『積年の思いが報われた』



○伊賀市長 今岡 睦之氏

「川上ダムによる治水・利水ともに地域全体として必要なのは間違いない。国の方針が発表され、我々木津川流域住民の積年の思いが報われたと同時に、胸のつかえが取れた気持ちである。住み慣れた土地を離れて移転された住民やこれまで尽力いただいた関係者に御礼を申し上げたい。今後は、(水資源機構と)地域の受益者である伊賀市も一体となって、一日も早いダム完成に向けて頑張っていきたい」

『上野遊水地は川上ダムなくして実現できない』

○川上ダム建設促進期成同盟会会長 西山 甲平氏

昭和40年代中頃から上野遊水池事業に長年関わってこられた西山さんは、今年2月に発足した同盟会の会長に就任され、4月には500名の参加者が集まった川上ダム建設促進決起集会を成功に収められました。

国のダム方針の発表について「当然のこと」としながらも「内心はホッとした」と正直な気持ちを話されました。



「上野では昔から多くの水害にさらされてきた。特に昭和28年に発生した『28災害』はひどく、家を失った方や移転を余儀なくされた方も数多くいた。治水は地元住民にとって早急な問題であり、その効果は『上野遊水池+川上ダム+河道掘削』の三位一体でなければ意味を持たない。国の方針が出されたからには、一刻も早い川上ダムの着工・完成を望む」と話されました。

『ダムに水が貯まるのを一日も早く見たい』



○川上地区ダム対策委員会委員長 古川 喜道氏

古川さんは、昭和50年1月から現在まで30年にわたってダム対策委員会の代表を務められています。

これまでの活動を振り返って「昭和42年にダム事業が計画されて以来、区民同士の中で意見の違いから、隣近所で挨拶ができなくなったり、会議の場でも意見の衝突が起きたりと辛い時期を過ごしてきた。その中で若者が徐々に減り、このままでは地域住民の将来は期待できないと思い、ダム事業を受け入れ、移転を決意した。ダム建設を行うという国の方針が出たからには、早く国に本体工事の予算をつけてもらい、ダムに水が貯まるのを一日も早く見たい」と話されていました。

事業主の水資源機構に対しては「未調整事項の解決に向けて努力して欲しい」との話がありました。



地域との交流・「たて干し」に参加



鮎の塩焼きに汗を流す漁協のみなさん

7月17日(日)、伊賀川漁業協働組合主催の「たて干し」が開催され、木津川流域の市民、約40名が参加されました。「たて干し」の始まりについては、江戸時代初めの頃から、第2代津藩主、藤堂高次(とうどうたかつぐ)(1629~1669)が浜遊びとして始められたと思われます。当日は家族連れでにぎわい、子供たちは河川敷に設けた仮設プールで歓声を上げながら、鮎のつかみ取りを行いました。又、漁協の皆さんによる鮎の塩焼き、鮎ごはん等の手料理がふるまわれました。 【副所長 菊竹昭雄】

花が取り持つご縁で地域交流

伊賀市商工会女性部の皆さんのご厚意による事務所玄関前の植花活動に対し、感謝の気持ちと日頃のお礼を兼ねて、7月12日(火)にお茶にお誘いしました。

大田部長をはじめとする6名の女性部の方々が当事務所を訪れ、所長室で恒吉所長と約1時間半楽しく懇談を行い、その中で川上ダムを中心とした地域の活性化や地元の子供達への情報発信などを希望する話がありました。 【総務課長 上村信幸】



鮎のつかみ取りに熱中する子供たち



伊賀市商工会女性部のみなさん



楽しく話す恒吉所長!!

~伊賀市議会「建設水道常任委員会」懇談会を開催~

6月22日(水)、川上ダム建設所ふれあいホールにて、伊賀市議会「建設水道常任委員会」の宮崎委員長ほか7名の委員を迎え懇談会を行いました。会の中で、木津川上流河川事務所及び当建設所からの事業進捗状況等の説明に対して、未だダム本体工事に着手できていない状況に、委員から川上ダム建設促進に向け叱咤激励のお言葉をいただき、我々に与えられた使命の重大さを今一度心に刻み直す機会を得た貴重な懇談会でした。 【調査設計課長 大原基秀】



建設水道常任委員会

伊賀市シルバー人材センターの皆さんによる草刈作業

7月12日(火)、伊賀市シルバー人材センターの皆さん総勢10名の方々が、オオサンショウウオ保護池にて、雨にもかかわらず草刈作業を行っていただきました。

恒吉所長から日頃の皆さんの活動に感謝の言葉を述べられるとともに、7月1日(金)に国土交通省近畿地方整備局から発表された川上ダム事業の方針について報告されると、皆さんは作業の手を休めて真剣に聞き入っていました。センター



皆さんに感謝の言葉を述べる恒吉所長

副理事長の坂根さんは、「ダム建設中止にならずに良かった」とほっと胸をなでおろされた様子で、ダムの一日も早い建設を望んでおられました。

センターの皆さんは地元農家の方がほとんどで、植生・地理・地形に精通しておられ、草刈機や鎌の扱いには実に手慣れたもの。高齢の方が多くにもかかわらず、チームワーク良く仕事をしている姿に感銘を受けました。



雨の中の草刈作業

【通信記者 田中幸志】

近畿地方整備局管内技術研究発表会 環境・景観部門において優秀賞受賞!!

7月7日(木)、8日(金)の2日間にかけて、近畿地方整備局管内の技術研究発表会が神戸国際会議場で開催されました。発表は6部門に分かれており、傍聴には一般の方々も参加できるというものでした。私は『環境・景観部門』に「オオサンショウウオの保全に向けた取り組み(移転試験の中間報告)」という論文でエントリーしましたが、今回の発表会のように一般の方々にも聞いていただける場所で川上ダム建設所が実施している環境保全対策を発表できたということは、とても貴重な機会であったと思います。

また、8日の表彰式においては各部門において5論文ずつ選ばれる優秀賞に選んでいただくことができました。これも一重に、これまでオオサンショウウオの保全に携わってきた担当者の方々が培ってきた成果だと感謝しています。



技術研究発表会(環境・景観部門)

【論文発表者・環境課 古賀勝之】

工事請負者によるオオサンショウウオ保護池見学会



オオサンショウウオ保護池を見学する工事請負者

工事請負者の主催による、オオサンショウウオ保護池見学会が6月16日(木)に開催され、現在道路工事を施工している工事請負者(4社)から27名が参加しました。

はじめに環境課職員によるパネル説明をした後、保護池を見学。保護池は初めてということで、人工巣穴や水路脇にいた成体(おとな)の姿や水槽の中の幼生(こども)達を間近で見る度に驚きの声があがり、すぐに質問が飛んできました。こうして1時間の見学会が終了。「今度は子供を連れて来たいな」そんな言葉もいただきました。今回の見学会は、工事請負者から要

請があったものです。これからも自然環境への取り組みを皆さまに理解して頂けるような企画を実施していきます。

【環境課 上坂ゆき子】

ササユリ、無事仮移植完了

付替県道工事施工箇所にて6月21日(火)、三重県版レッドデータブックで希少種に指定されているササユリの目撃情報(引地副所長)がありました。そこで、事前に植物の大田先生に仮移植方法をご指導いただき、6月24日(金)、環境課職員によりプランターへ仮移植しました。



上: ササユリ

左: 珽樹ら掘り起こす



ササユリをプランターに仮移植

今回発見・仮移植したササユリは合計4株。昨年11月に別の道路工事箇所から仮移植したササユリと同様、現在はオオサンショウウオ保護池内でプランターにて管理しています。ちなみに昨年のササユリは今年6月17日(金)に見事開花しました。今後は、工事跡地など移植適地の検討をしていきます。

花期は6~7月で、白~ピンクの花は1週間が命。来年も目撃したら、ぜひ環境課までご一報下さい

【環境課 上坂ゆき子】

EVENT

やぶっチャ夏祭り

模擬店が多く出店され、荒獅子太鼓の演奏など内容盛りだくさん。夜には花火も打ち上げられ、夏の夜空を彩ります。

○日時/8月6日(土) 16:30~21:00

○場所/やぶっチャランドゆうゆう鯛ヶ瀬(伊賀市島ヶ原)

野外ミュージックフェスティバル

心地よい風に吹かれながら野外で音楽を楽しむ催し。出演はジャズトランペラー日野皓正さん、女性に人気の佐藤竹善さん他。

○日時/8月6日(土) 開場14:00、開演16:00

○場所/メナード青山リゾート屋外ステージ(伊賀市霧生)

市民夏のにぎわいフェスタ2005

伊賀上野の夏のお楽しみイベント。ストリートマーケットやパフォーマンス満載の「楽市・楽座」が開かれます。

○日時/8月20日(土) 12:00~21:00

○場所/上野市街 銀座通り・本町通り他

編集後記

7月1日に国土交通省が発表したダム事業方針について多くの反響がありました。「川上ダム事業は実施する」の方針を受け、大きなハードルを越え、ホッとしたのと同時に、心引き締まる思いがしております。

今回インタビューを受けて下さった方々、お忙しい中、時間を割いて頂きありがとうございました。通信記者として初めてのインタビュー取材で不慣れな点もあり、失礼な点があったかと思いますが、快くインタビューに答えていただいたことに感謝しております。

今回の取材を終え、多くの方が川上ダム事業を応援して頂いていることに改めて驚きました。今後は、各関係機関と連絡を取りながら、ダム事業の推進に向け努力していきたいと思っております。

広報誌発行事務局

編集長 恒吉 徹(川上ダム建設所長)

デスク 上村 信幸(総務課長)

〃 二林 修(工務課長)

通信記者 武村 剛泰(総務課)

〃 田中 幸志(工務課)